

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市国見児童館	
2 指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 21,031人(前年度比 122.5%) 令和4年度 17,169人 令和3年度 15,233人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 38,525千円 (37,164千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供、外国人が多い地域性を踏まえた翻訳機器の用意等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。さらに子どもの意見を大切に、子ども会議をもうけて子ども自身が生活や遊びのルールを決めるよう支援するなど自主性や社会性を育てている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。また、多国籍の児童が在籍しているという地域特性を生かし、自家栽培のジャガイモを使ったハラール食対応のカレーと日本のカレーを作って食べる行事を開催し、食を通して異文化への理解が図られるよう支援した。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）による自己評価》
<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、自粛することなく各事業のイベントを行うことができた。</p> <p>健全育成事業:「たいけんランド」は職員が担当した。職員の得意分野を活かし、バラエティに富んだ特徴のあるものになった。(ガラスのコップに花を活けたり、百日紅で有名な寺を探索して地域を知ることができた)</p> <p>「KUNIMIワールドツアー」と題して実施した児童館まつり、多国籍の当館ではいろいろな国の「こんにちは」を学習しながら楽しく遊ぶことができた。「JUMP・JAN」(運動遊び)ではトレーナーの資格を持つ職員がいることから、いつでも運動遊びができる環境にあり、小学校PTAも加わることで連携を深めることができた。</p> <p>子育て家庭支援事業:「0ちゃんくらぶ」(登録制)はママ達に好評で子どもの対象年齢を広げて実施したことから+を付け、「0ちゃんくらぶ+」に変更した。貝ヶ森市民センター・児童館主催「ちびっこひろば」でブースを担当し、地域交流ができた。他館から講師を招き、「ママのための産前産後ケア」をパパを交え、手形&足形キーホルダー作りを実施した。</p> <p>放課後児童健全育成事業:久々のすずめっこ1,000人祭連に参加し臨場感を味わった。当年度もハラルルを含めカレーパーティーを実施するためジャガイモの種芋を植え、収穫できた。恒例の「ベタンク交流戦」では男女とも好成績を収め、「チャレンジカップ」は“スピード”が人気で夏休み・春休みに実施した。子どもたちは我こそは、と果敢にアタックしていた。保護者会の後に「親子でクッキング(生春巻き&ドレッシング作り)」を実施した。</p> <p>地域交流推進事業:「貝ヶ森だよ、全員集合！ふらっと寄り道軽体操」の受付を担い、参加の呼びかけを行い、授業では味わえない体験を5年女子は「地域の方と交流できてうれしかった。」と述べた。国見の竹にこだわった「竹灯り製作」では地縁がまたひとつ増えた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、職員の特技や子ども達に経験してほしい事を職員が持ち回りで行う「たいけんランド」を毎月開催しており、物作りや地域探索、お菓子作り等、子どもの興味関心を広げる内容で創意工夫が見られた。その他にも近隣の郵便局長を招いて行われた「年賀状を書いてみよう」や近所の竹を利用した竹あかりの制作、保護者の協力を得て行った「KMキッチン」の生春巻き作り等、地域の人材や資源を活用した様々な活動を通して、地域の方々と関わりながら子ども達の自主性や社会性を育てている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、前年度新設した0歳児登録制の「0ちゃんくらぶ」が保護者の要望で対象年齢を1歳児まで拡大して行われ、季節の行事や簡単おやつ作り等を通して地域における情報共有や仲間作りをするための参加者同士の交流の場となり好評を得ている。その他のも「ママのための産前産後ケア」や「ミニブルで遊ぼう」の新たな取り組みや児童館で収穫した野菜を使ったおやつ作り等、保護者や地域のニーズにあったプログラムを提供しており、乳幼児親子を支援するための環境作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、職場体験の中学生と乳幼児親子のイベントを通じた交流や近隣の大学の学生ボランティアの継続的な受け入れにより、小学生の学習支援や遊びを通じた交流等、異年齢の交流の場が広がった。また、地域の福祉施設や青葉区役所障害高齢課、地域包括センター等で結成されている「ゆるっく～地域でつながろうの会～」のイベントへの参加では、子ども達が受付を担い、地域の方と積極的に関わる姿が見られ、世代間交流を通して社会性を育み、自己有用感を高める機会となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、館外活動や文化交流、食育活動、季節の行事等、1年を通して様々な活動が行われている。特に子ども達が収穫したジャガイモを使ったカレーパーティーは、ハラルル食対応のカレーと日本のカレーで異文化交流が行われる恒例行事となっている。また、ヒヤリハットを用いて事例検討をして原因分析と改善策を職員間で共有し、事故防止に努めている。その他児童クラブ日誌にニヤリほっとの項目を設け、何気ないやり取りや言動を記録し、子どもの個性や良い姿を捉えて職員で共有しながら支援にあたっている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課